TOKYO

マティス、バスキア、草間彌生など
110人の作家による
34組のトリオ

辻永《椿と仔山羊》1916年、東京国立近代美術館　Tsuji Hisashi, *Camellias and Kids*, 1916, The National Museum of Modern Art, Tokyo

ラウル・デュフィ《家と庭》1915年、パリ市立近代美術館　Raoul Dufy, *House and Garden*, 1915, Musée d'Art Moderne de Paris　photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

見て、比べて、話したくなる。

PARIS

TRIO　パリ・東京・大阪
モダンアート・コレクション

OSAKA

アンドレ・ボーシャン《果物棚》1950年、大阪中之島美術館
André Bauchant, *The Fruit Stall*, 1950, Nakanoshima Museum of Art, Osaka

Modern Art Collections from Paris, Tokyo and Osaka

Exhibition organized with the collaboration of the Musée d'Art Moderne de Paris, Paris Musées

PRESS RELEASE

大阪中之島美術館 NAKANOSHIMA MUSEUM OF ART, OSAKA　MAM MUSÉE D'ART MODERNE DE PARIS　PARIS MUSÉES　MOMAT

TRIO展について

パリ、東京、大阪ーそれぞれ独自の文化を育んできた3都市の美術館のコレクションが集結。セーヌ川のほとりに建つパリ市立近代美術館、皇居にほど近い東京国立近代美術館、大阪市中心部に位置する大阪中之島美術館はいずれも、大都市の美術館として、豊かなモダンアートのコレクションを築いてきました。本展覧会は、そんな3館のコレクションから共通点のある作品でトリオを組み、構成するという、これまでにないユニークな展示を試みます。時代や流派、洋の東西を越えて、主題やモチーフ、色や形、素材、作品が生まれた背景など、自由な発想で組まれたトリオの共通点はさまざま。総勢110名の作家による、絵画、彫刻、版画、素描、写真、デザイン、映像など150点あまりの作品で34のトリオを組み、それをテーマやコンセプトに応じて7つの章に分けて紹介することで、20世紀初頭から現代までのモダンアートの新たな見方を提案し、その魅力を浮かびあがらせます。

みどころ

二度とないかも!?
パリ、東京、大阪の名品による夢のトリオ展が実現

パリ、東京、大阪。個性的な3都市を代表する3つの美術館による共同企画、「TRIO（トリオ）」展。34のテーマに沿って、それぞれのコレクションからぴったりの作品をセレクト。「モデルたちのパワー」「空想の庭」「日常生活とアート」など、本展のためだけに特別なトリオを組みました。3つの美術館を代表する作品たちの一期一会がモダンアートの新しい魅力を開きます。

ピカソ、ローランサン、バスキア、藤田嗣治、佐伯祐三、草間彌生……
総勢110作家、約150作品が集結

20世紀から現代にかけて活躍してきた、西洋と日本の110名のアーティストの作品が一堂に会します。モダンアートを代表する巨匠から現代に活躍するアーティストまで、初来日32点をふくむ約150点をご覧いただけます。

マティス、萬鉄五郎、モディリアーニがトリオに!?
意外な3点を見て、比べて、話したくなる

東西の巨匠が同じテーマで絵を描いたら…？アートファン垂涎の組み合わせが実現します。バスキアと佐伯のストリートアート対決、藤田とローランサンの女神競演、ピカソと萬のキュビスム作品、交友関係にあった岡本太郎とアルプの響き合う作品どうしの組み合わせも必見です。

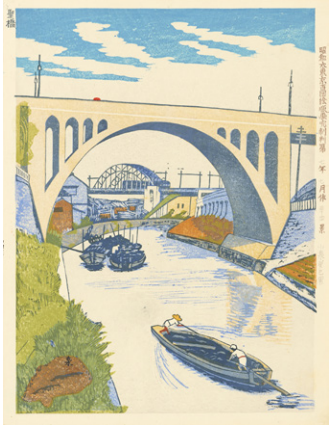
TRIO解説

各トリオのテーマと#（ハッシュタグ）は、3つの作品を見て、比べて、誰かと話したくなるヒントになっています。

川の流れる都市風景

#三者三様川景色
#眺めのいい川
#橋にも注目

アルベール・マルケ《雪のノートルダム大聖堂、パリ》
1912年頃、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



小泉癸巳男《「昭和大東京百図絵」より 30. 聖橋》
1932年、東京国立近代美術館　※前期展示

小出楢重《街景》
1925年、大阪中之島美術館

セーヌ川とシテ島に建つノートダム大聖堂は、パリを象徴する風景の一つです。マルケは100年以上前、雪に包まれた大聖堂とその周辺を柔らかなタッチとモノトーンの色調で表現しました。一方、小出楢重と小泉癸巳男の作品は、急激に都市化が進み、刻々と変化し続けたかつての二つの都市を切り取ります。小出の《街景》は、大阪市中心部を流れる堂島川を高所から眺め、遠景に黒煙を吐く工場の煙突をとらえて、「煤煙の都」と呼ばれた大正末の大阪を描写します。小泉の作品は、関東大震災（1923年）から復興した東京の街をテーマとする連作版画の一部です。架け替えられたモダンな橋を望む景色は、震災からの復興を力強く示すとともに、城下町から近代都市へ変化を遂げた東京の姿をも伝えています。

空想の庭

#メルヘンガーデンズ
#植物好き

ラウル・デュフィ《家と庭》
1915年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

辻永《椿と仔山羊》
1916年、東京国立近代美術館

アンドレ・ボーシャン《果物棚》
1950年、大阪中之島美術館

いずれも植物が画面全体を覆っていますが、実は3人の画家たちはみな植物に深いゆかりがあります。植物園の近くに住み、動植物をモチーフにしたテキスタイルデザインを数多く手がけたデュフィ、草花を愛した父の影響でかつて植物学者を志したことのあった辻永、そして独学で画家になる前に園芸業を営んでいたボーシャン。彼らはそれぞれが好んだ草花や果物、動物をリズミカルに画面に配置しながら、自由にイマジネーションを羽ばたかせ、絵の中にしか存在しない空想の庭とでも呼ぶべき世界を作り出しています。草花で埋め尽くされた装飾的な画面は、どこか幻想的な雰囲気に包まれ、花や果物の香りが匂い立つようです。

現実と非現実のあわい

#名作へのオマージュ
#ヒトなのかヒトでないのか

ヴィクトル・ブローネル《ペレル通り2番地2の出会い》
1946年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

有元利夫《室内楽》
1980年、東京国立近代美術館

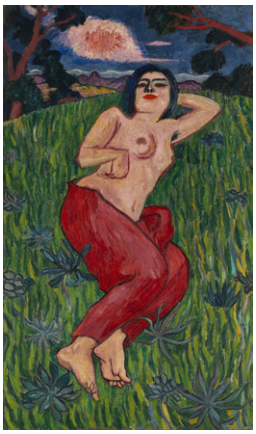
ルネ・マグリット《レディ・メイドの花束》
1957年、大阪中之島美術館

このトリオは、いずれも過去の絵画を参照し、画家が自らの分身のような存在を描き込むことで、現実と非現実のあわいを出現させているという点で共通しています。ブローネルは、かつてアンリ・ルソーが住んだペレル通り2番地2に引っ越したことから、ルソーの《蛇使いの女》（1907年、オルセー美術館）に、自らが生み出した、巨大な頭部と2つの身体、6本の腕を持つ「コングロメロス」を登場させています。マグリットはしばしば描いた山高帽の男の背に、ボッティチェリの《春》（1482年頃、ウフィツィ美術館）の花の女神フローラを重ねました。ピエロ・デッラ・フランチェスカから初期ルネサンスのフレスコ画に魅せられた有元の絵画は、他の多くの作品にもみられる古典的な女性が中央に鎮座し、非現実的でありながら懐かしさを漂わせています。

モデルたちのパワー

#お決まりのポーズ
#私たちくつろいです

アンリ・マティス《椅子にもたれるオダリスク》
1928年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris



萬鉄五郎《裸体美人》（重要文化財）
1912年、東京国立近代美術館

アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》
1917年、大阪中之島美術館

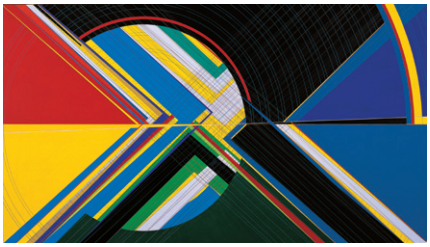
大胆にくつろいだポーズで、思い思いに寝そべるモデルたち。西洋絵画の歴史の中で脈々と続いてきた横たわる女性像は、理想美を体現し、男性に見られる対象として、しばしば無防備な姿で描かれてきました。しかし、挑発するようにこちらを見つめるモディリアーニの裸婦、寝ころんでこちらを見おろす萬の裸体美人、そして見られることにまるで無頓着なマティスのオダリスクには、私たちの視線を跳ね返し、彼女たちそれぞれの美を誇るようなパワーがみなぎっています。

色彩とリズム

#女性アーティストたちの抽象
#カラフルでダイナミック

ソニア・ドローネー《色彩のリズム》
1964年、パリ市立近代美術館
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

田中敦子《作品66-SA》
1966年、東京国立近代美術館
© Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association



菅野聖子《フーリエ変換（プロコフィエフ 束の間の幻影）》
1978年、大阪中之島美術館

円を中心とした幾何学的フォルムと、赤、青、黄、緑といった原色に近い色彩がリズミカルに並べられています。1960年代から70年代頃、フランスと日本で活動する3人の女性の画家たちによって、非常によく似た構造の絵画が生み出されました。ドローネーは、20世紀初頭から幾何学的抽象を追求し、テキスタイルデザインの経験を経て、豊かな形態や色彩のレパートリーを生かした作品を制作しています。田中の作品は、無数の電球・管球が明滅する《電気服》（1956年）のための円（電球）と曲線（コード）のドローイングから発展したものです。菅野は音楽や哲学、数学、物理から線を引く法則を導き出し、やがて鮮やかな色彩と組み合わせるようになります。見た目は似ていても、それぞれの成り立ちは全く異なります。

日常生活とアート

#日常とアートのあいだ
#影もステキ　#見ため軽やか

ジャン=リュック・ムレーヌ《For birds》
2012年、パリ市立近代美術館
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 C4505
photo: Paris Musées / Musée d'Art Moderne de Paris

冨井大裕《roll（27 paper foldings）#15》
2009年、東京国立近代美術館
©Motohiro Tomii, Courtesy of Yumiko Chiba Associates
撮影：大谷一郎

倉俣史朗《Miss Blanche（ミス・ブランチ）》
デザイン1988年 製作1989年、大阪中之島美術館

このトリオは、日常生活で用いるものをアートの領域に引き入れることで、私たちの常識的概念に揺さぶりをかけます。ムレーヌの《For birds》はありふれた鳥かごのようですが、その隙間や開口部はガラスで完全に密閉されています。まるで内部に空を囲い込み、檻の外＝自由という常識を逆転させているかのようです。冨井の《roll…》は、折り紙をホチキスで留めただけの簡単な構造でできています。紙がつぶれたり破れたりしたら、指示書に従い新しい折り紙を用いて作り直すことができ、芸術作品の永続性に疑問を投げかけます。一方、倉俣の《Miss Blanche（ミス・ブランチ）》は、椅子としての機能を持ちながら、オブジェのような存在感を放ちます。これは家具でしょうか？それともアートでしょうか？

パリ市立近代美術館

photo: Fabrice Gaboriau

シャンゼリゼ通りとエッフェル塔の間に位置するパリ市立近代美術館の宮殿は、1930年代の壮麗な建築の一例。15,000点以上の作品を所蔵するパリの重要な文化施設であり、フランス最大級の近現代美術館のひとつ。

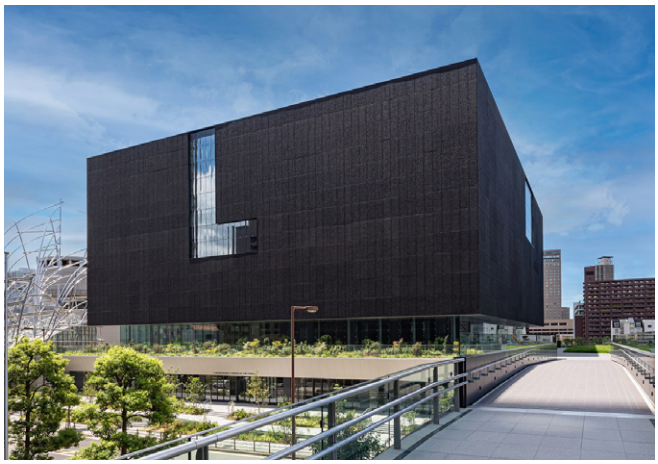
主な本展出品作家　※五十音順
イヴ・クライン／マルク・シャガール／ヘンリー・ダーガー／
ジョルジョ・デ・キリコ／ラウル・デュフィ／ソニア・ドローネー／
パブロ・ピカソ／ピエール・ボナール／アンリ・マティス／
モーリス・ユトリロ

東京国立近代美術館

東京国立近代美術館は、東京の中心・皇居のお濠を前に建つ日本で最初の国立美術館。最大の特徴は、横山大観、上村松園、岸田劉生らの重要文化財を含む13,000点を超える国内最大級のコレクション。19世紀末から現代までの幅広いジャンルにわたる日本美術の名作を、海外の作品もまじえて多数所蔵。

主な本展出品作家　※五十音順
石内都／岡本太郎／小倉遊亀／岸田劉生／草間彌生／
パウル・クレー／田中敦子／冨井大裕／奈良美智／藤田嗣治

大阪中之島美術館



大阪中之島美術館は、2022年、大阪市中心部に開館。19世紀後半から今日に至る日本と海外の代表的な美術とデザイン作品を核としながら、地元大阪で繰り広げられた豊かな芸術活動にも目を向け、絵画、版画、写真、彫刻、立体、映像など多岐の領域にわたる6,000点超を所蔵。

主な本展出品作家　※五十音順
菅野聖子／倉俣史朗／佐伯祐三／サルバドール・ダリ／
ジャン=ミシェル・バスキア／ルネ・マグリット／
アメデオ・モディリアーニ／森村泰昌／マーク・ロスコ／
マリー・ローランサン

[出品作家一覧]

カレル・アペル
ジャン・アルプ（ハンス・アルプ）
アルマン（アルマン・フェルナンデス）
サビーヌ・ヴァイス
シュザンヌ・ヴァラドン
グザヴィエ・ヴェイヤン
パブロ・ガルガーリョ
アレクサンダー・カルダー
アンリ・カルティエ=ブレッソン
イヴ・クライン
パウル・クレー
マルク・シャガール
シャイム・スーティン
ヘンリー・ダーガー
サルバドール・ダリ
ジョルジョ・デ・キリコ
ジュリアン・ディスクリ
レイモン・デュシャン=ヴィヨン
ラウル・デュフィ
フランソワ・デュフレーヌ
フェリックス・デル・マルル
ソニア・ドローネー
ロベール・ドローネー
ロベール・ドワノー
ジャン=ミシェル・バスキア
パブロ・ピカソ
ジャン・フォートリエ
ブラッサイ
コンスタンティン・ブランクーシ
マリア・ブランシャール
ヴィクトル・ブローネル
アンドレ・ボーシャン
ウンベルト・ボッチョーニ
ピエール・ボナール
セルジュ・ポリアコフ
ルネ・マグリット
アンリ・マティス
アルベール・マルケ
アンリ・ミショー
ジャン=リュック・ムレーヌ
ジャン・メッツァンジェ
ファウスト・メロッティ
アメデオ・モディリアーニ
モーリス・ユトリロ
ジェルメーヌ・リシエ
エル・リシツキー
マルク・リブー
フェルナン・レジェ
マリー・ローランサン
マーク・ロスコ
天野龍一
有元利夫
池田遙邨
イケムラレイコ
石内都
出光真子
岡本更園
岡本太郎
小倉遊亀
恩地孝四郎
河合新蔵
川上涼花
川崎亀太郎
菅野聖子
菊畑茂久馬
岸田劉生
北代省三
北野恒富
北脇昇
草間彌生
倉俣史朗
小泉癸巳男
小出楢重
古賀春江
佐伯祐三
佐藤雅晴
佐保山堯海
汐見美枝子
菅井汲
杉浦非水
高梨豊
辰野登恵子
田中敦子
辻永
津田洋甫
東郷青児
東松照明
百々俊二
冨井大裕
富山治夫
中西夏之
奈良美智
奈良原一高
長谷川利行
畠山直哉
早川良雄
原勝四郎
藤島武二
藤田嗣治
前田藤四郎
松本竣介
丸木俊（赤松俊子）
三岸好太郎
村山知義
百瀬文
森村泰昌
安井曽太郎
柳原義達
吉原治良
萬鉄五郎

開催概要

[展覧会名]

和）TRIO　パリ・東京・大阪　モダンアート・コレクション
英）Trio: Modern Art Collections from Paris, Tokyo and Osaka
Exhibition organized with the collaboration of the Musée d'Art Moderne de Paris, Paris Musées

[展覧会公式サイト]

https://art.nikkei.com/trio/

[東京会場]

会期：2024年5月21日（火）－8月25日（日）
会場：東京国立近代美術館
開館時間：午前10時－午後5時　＊金曜日と土曜日は午後8時まで開館　＊入館は閉館の30分前まで
休館日：月曜日　＊ただし、7/15、8/12は開館、翌火曜日休館
主催：東京国立近代美術館、大阪中之島美術館、日本経済新聞社、テレビ東京、BSテレビ東京
特別協力：パリ市立近代美術館、パリミュゼ

[大阪会場]

会期：2024年9月14日（土）－12月8日（日）
会場：大阪中之島美術館　4階展示室
開館時間：午前10時－午後5時　＊入場は16時30分まで
休館日：月曜日　＊ただし、9/16、23、10/14、11/4は開館、翌火曜日休館
主催：大阪中之島美術館、東京国立近代美術館、日本経済新聞社、テレビ大阪
特別協力：パリ市立近代美術館、パリミュゼ

※会期中、一部作品は展示替えがあります。
東京会場：前期 5月21日－7月7日、後期 7月9日－8月25日
大阪会場：前期 9月14日－10月27日、後期10月29日－12月8日

プレスお問い合わせ先

TRIO展　広報事務局（ユース・プラニング センター内）
担当：平野／池袋
〒150-8551　東京都渋谷区桜丘町9-8　KN渋谷3ビル4F
Tel: 03-6821-8466　Fax: 03-6821-8869
Email: trio2024@ypcpr.com